

編集後記

巻頭言にもあるように、臨床心理士の資格認定がスタートして21年目に入り、社会的認知も広まってきました。福祉、教育、医療・保健、司法・矯正、労働・産業、各相談施設の現場で働くためには、臨床心理士の資格を有する者という応募条件が、必ず付くようになって久しい感じがします。そして、その多様な心理臨床実践の現場で働くために、大学院教育においても、地域実践に力を入れる事が重要になってきたのです。本学では、昨年度から「地域実践活動を創造できる臨床心理士の養成」という文部科学省の大学院教育改革支援プログラムに基づき、臨床心理地域実践実習などの授業以外にも、心理相談室ウィーク（子育て支援に関する講演を含む）、本年度は8月の海外実践交流（韓国明智大学）、2月の「地域実践活動に従事する臨床心理士によるセミナー」、3月のシンポジウム「子どもが育つ場を考える～家庭・地域・教育現場・臨床心理士の連携～」など盛りだくさんの企画をし、多くのことを学びました。

もちろん、そのような地域実践のためには、心理相談室で一人一人のクライアントさんと向き合い、その人の悩みを聴くことで立ち直りを支援する日々の実践により、積み重ねられた知恵と経験がベースになくは何もなりません。日常的で意識することは少なくなりがちですが、心理相談室が地域実践の大切な現場の一つなのです。治療構造がはっきりしている、組織への来談カウンセリングで力をつけて、カウンセリングがある程度できるようにならなければ、様々な地域実践の現場に出ても仕事はできません。カウンセリングの専門家であるから、地域実践の現場で活用されるのです。ですから、事例検討などを通じてカウンセラーとしての力量を高めることに常に立ち返り、足元をしっかりと固めることを、教員、スタッフともども、今一度肝に銘じたいと思います。今後とも、皆様のご理解とご協力を頂き、いっそう充実した相談室にしていきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。（小林哲郎）

編集委員

山口 素子・小林 哲郎・國吉 知子・水田 一郎・石谷 真一・児玉 佳子
桑山久仁子・水貝美由紀・田上 蘭・今井 千尋・奈良 晶子・中山貴久子

心理相談研究 第10号

2009年3月31日 発行

発行 神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室

〒662-8505 西宮市岡田山4-1

TEL/FAX 0798-51-8554

印刷 尼崎印刷株式会社

〒661-0975 尼崎市下坂部3丁目9-20

TEL 06-6494-1122

FAX 06-6495-2360